

初天神

南神崎を歩く

匝瑳探訪

— 80 —

新たな年・平成25年が明けました。正月元旦の初詣から2月にかけて市内各地でさまざまな伝統行事が行われます。中には多くの人が参加しやすいように休日などに催すものもありますが、旧来からの神仏の縁日に行事を行っている地域も見られます。

毎月8日の薬師如来、観音様の18日、21日の弘法大師、24日の地藏様など縁日に行われるものが、正月は「初薬師」「初観音」「初弘法」と呼ばれる賑わいを見せるところもあり

ます。

25日が縁日の天神(菅原道真)をまつる神社(天満宮・天神社)は1月25日を「初天神」といい、落語の演目にもなっています。

市内には現在、宗教法人登録の神社66社のうち、天神社は城下区(飯高地)と南神崎区(吉田地区)の2社がまつられています。

南神崎は県道106号線に沿って家が続き、バス停から少し下った市道沿いにも集落があります。集落のほぼ中央

にある常教寺(日蓮宗)境内には1412年に立てられた題目(だいもく)板碑(いたひ)があって、中世から集落が形成されていたのでしよう。

今でも「神崎」とよばれることが多いのは当時からの名残と考えられ、「南神崎村」となったのは1635年

に領主が変わった時のようです。1845年の同村の家数は21軒でした。

天神社は、常教寺の北側の林の中にあります。平成10年に市内の歴史研究グループがまとめた『八日市場市の社寺(のほり)幟(ぼり)と幕』によると、同神社には江戸時代の幟が9本残されていて、3本は同村以外の信者から納められたことが知られます。1726年のものは「八日市場江波戸市郎兵衛」、1818年のものは近隣の貝塚村の人が奉納しました。

現在でも毎年受験シーズンになると、学問の神として天満宮に合格祈願する様子が見受けられます。

市内には宗教法人登録の天神社のほか、江戸時代には18か村に境内社や石宮の天神社(天満宮)がまつられました。13ある石宮のうち7基は「村中」「講中」「筆子中」(寺子屋で学ぶ子どものこと)などによって立てられました。

南神崎の天神社もおよそ300年ほど前の幟に見られるように、村内だけにとどまらず近隣からも信仰を集めていたのでしよう。

岡秘書課広報広聴班

☎ 73・0080



天神社の本殿